

SWIFT ユーザー・グループ・ミーティング 2011 報告

スイフト・ジャパンは、6月7日（火）、Alliance7.0のご紹介とMXメッセージの標準化に関する現状や利用状況等をテーマに、SWIFTユーザーであるIT部門担当の皆様を対象とした「SWIFTユーザー・グループ・ミーティング 2011」を大手町サンケイプラザ（東京都千代田区）にて開催致しました。会場には業界を代表する多数の方々が来場し、45名にご参加頂きました。

冒頭、スイフト・ジャパン代表の渡部吉昭が開会の挨拶を述べ、7月に迫ったSWIFTビジネスフォーラムや9月にトロントで開催されるSibos 2011、そして、いよいよ来年に開催を控えたSibos大阪について紹介しました。

本セミナーのはじめに、スイフトのアジア太平洋地区スタンダード担当の森岡美江子がISO 20022のアップデートを行いました。冒頭ISO 20022の5つの特徴である「構文に中立的なビジネス・モデリング・メソドロジー」「開発と登録のプロセスを一般化」「テクニカル・デザイン・ルールという方法論の取り決め」「ファイナンシャル・レポジトリの一元管理・公開」「リバースエンジニアリング」が説明され、2011年3月時点における287の公表済み電文の概略が紹介されました。市場インフラにおける導入状況として、SEPA（Single Euro Payments Area）、T2S（Target 2 for Securities）、DTCC（DTCC、SWIFT、XBRLUSのコーポレートアクション共同プロジェクト）、JASDEC（証券保管振替機構）について報告されました。また、SWIFTにおけるMT/MXの移行計画に関しては、ファンド、Exception & Investigationsの2分野のみを予定しており、ファンドの移行期限を2012年から2015年に変更することで現在理事会が検討していることを示しました。

続いて、スイフトのアジア太平洋地区プロダクトマネージャーのフォレスト・リン（Forrest Lin）が様々な国のケーススタディ（インドネシアのKSEIなど）を紹介しながらAlliance Integratorについて説明しました。FINの世界では、スタンダードリリースのフォーマットを装備し、簡単に対応が可能であるため、Alliance Integratorは頻繁に利用されていると解説。またAlliance Integratorは、様々なオプション機能（アダプター）を備えているため、お客様のバックオフィスとのインターフェイス構築も容易に行える点を示しました。

最後に、スイフト・ジャパンの山田文孝が、「SWIFTNet/Alliance7.0の導入と新機能」についての紹介に加え、データベース・リカバリ、Alliance Web-platformのデモンストレーションを行いました。ここでは、Alliance7.0への切替時におけるAlliance6.0からのデータ移行の留意点、FileActおよびWeb-Serviceを利用したデータ検



SWIFTユーザーの
IT部門ご担当者45名が参加



スイフトの森岡がISO 20022の
利用状況等をアップデート



スイフトのリンがAlliance
Integratorを説明



スイフトの山田が
SWIFTNet/Alliance7.0を紹介

素等の 7.0 シリーズに新たに加わった機能を紹介しました。Alliance Web-Plarform のデモンストレーションでは、Alliance Access の構成変更、メッセージ作成用の主要な画面構成を紹介し、従来の Alliance Workstation との相違点などを解説しました。また、2012 年末がユーザーサポート期限となっているため、今後の切り替え準備を呼び掛けました。